

公益財団法人 アジア保健研修所

2017年度事業報告書

(第6期 2017年4月1日～2018年3月31日)

はじめに	2
A. 研修事業	
1. 国際研修	2
2. 研修生へのフォローアップ事業	2
1) 英文ニュースレターの発行	
2) リユニオンセミナー（国別の元研修生会合）の開催	
3) 次世代育成事業の企画立案	
4) その他のフォローアップ	
3. 地域保健推進のための協働事業	3
1) フィリピン	
2) フィリピン	
3) パキスタン	
B. 国内活動	
1. アジア理解のためのプログラム	4
1) オープンハウス	
2) 初めて始めて講座	
3) AHI 講座	
4) 元研修生による巡回報告会	
5) スタディツアー	
2. 情報および体験機会の提供	5
1) 情報誌「アジアの健康」の発行	
2) 情報誌「アジアの子ども」の発行	
3) ホームページ運営	
4) ボランティア・インターンの受け入れ	
3. 他団体との協力	6
1) 他団体への講師派遣	
2) 団体・ネットワークへの加盟	
3) 他団体との協力による政策提言活動	
C. 法人運営	
1. 理事会・評議員会	6
2. 賛助会員募集・募金活動	7

はじめに

2017年度には2ヶ国で、元研修生有志が企画・運営を行ったリユニオンセミナーを開催し、AHIとのつながりを基に、様々な団体がそれぞれの経験から学び合う場を提供した。創立35周年記念アジア次世代育成募金事業では、元研修生の活動事例を把握することに努めたが、次年度以降一層の展開が必要である。

国内活動および支援者獲得に関しては、プロボノの協力を得て検討を続けた。結果、新規の事業も必要であるが、むしろ、これまでの活動の蓄積である情報や人的資源をいかに活用するか、いかにわかりやすく魅力的に発信できるかが課題であることが確認された。次年度以降具体的な取り組みにつなげる。

A. 研修事業

1. 国際研修

期間：2017年8月27日～10月9日

場所：アジア保健研修所（AHI）

参加者：保健・開発分野の地域活動に従事するNGO職員、住民組織のリーダー・行政職員等アジア10ヶ国から計12名（男性8名、女性4名）

国別内訳：バングラデシュ1、カンボジア2、インド1、インドネシア1、モンゴル1、ミャンマー1、ネパール1、スリランカ1、タイ2、ベトナム1

＊「地方分権下における住民参加による保健活動の推進」をテーマに、参加者の活動経験と課題意識に基づく研修を実施した。下記の内容を通して、各参加者が自分の地域、組織の課題解決に向けた方策を模索し、帰国後の活動計画を立案した。

＊地域住民の健康問題の原因、保健政策の現状と

課題、グローバル化の影響など、関連した諸状況を分析的にとらえ、地域住民が主体となって課題の解決を図るために、NGOにはどのような役割が必要かを討論した。特に、住民組織の能力形成、地方行政や他の関係機関との連携の構築や政策提言の方策を考えた。

＊日本における市民活動や市民と行政の協働を具体的な事例から学ぶため、日進市、名古屋市、長野県阿智村を訪問し、活動見学や関係者との意見交換を行った。

＊広島市を訪問し、平和教育や平和活動の実践を知ることにより、平和を創り出すために地域保健活動が果たし得る役割について考えた。

＊参加者および担当職員の健康に配慮し、かつ研修生同士の自由な意見交換を促すため、一日あたりの研修時間を短くし、一方、期間を1週間延ばした。これらにより、上記のねらいに対し一定の効果が得られた。

2. 研修生へのフォローアップ事業

1) 英文ニュースレターの発行

元研修生や国内外の関係団体との関係継続および経験共有の媒体として、下記のテーマで、計2回、各1,000部発行した。

2017年7月 タイのユニバーサルヘルスカバレッジ確立までの歩みを紹介。

2018年2月 元研修生の次世代育成のための活動事例を紹介。

2) リユニオンセミナー（国別の研修生会合）の開催

同国内で活動する元研修生間の新たな経験交流およびネットワーク構築の機会として、2017年度はスリランカとバングラデシュにて開催した。元研修生有志が企画・立案から実施・運営を担った。

① スリランカ

期間：2018年12月3日～6日

テーマ：ローカルガバナンス（住民の参加と意思に基づく地方自治）

場所：トリンコマレー（北部の都市）

参加者：元研修生18名他

職員が2名出張した。

② バングラデシュ

期間：2018年3月15日～18日

テーマ：平和で包摂的な社会づくりのためのリーダーシップ育成

場所：サバル町（首都ダッカ近郊）

参加者：元研修生29名他

職員が2名出張、また会員1名参加した。

3) 次世代育成事業の企画立案

当事業は創立35周年記念「アジアの次世代育成募金」を原資とし、実施期間を2025年までとする。

将来の地域づくりを担う人材を育成することは、国・地域を問わずいずれの元研修生にとっても重要な課題である。

2017年度は、元研修生から活動事例を募り、英文ニュースレターに掲載することを通して、取り組みの状況や課題の理解に努めた。また、次世代育成事業の具体的な企画立案にむけ、職員が出張時に関係者を訪問、面談したり、上述のように事例を寄せた元研修生を集め会合を開き、さらなる課題の把握を行った。

4) その他のフォローアップ

■AHI との関係強化、研修生間のネットワーク形成のために

研修参加後もAHIおよび他の研修生との関係が継続されるよう、下記を行った。

*職員が寄せ書きした誕生日カード、年末のグリー

ーティングカードの送付。

*ホームページ上の「元研修生便覧」（元研修生が他の元研修生を活動領域や国別などで検索できる機能）の周知と活用の促進。

■国際ワークショップ準備

NGO スタッフを主対象としAHIで行う国際研修と異なり、元研修生およびその団体の活動地で、活動に関わる現地の当事者（住民リーダー、地方行政）との交流を含む現地視察を主な内容とするのが国際ワークショップの特徴である。参加者も、各国から元研修生が、活動地域の住民組織のリーダーや行政職員をと共に参加する。

健康課題をめぐる多様な関係者の連携をテーマに、タイで2018年度以降に開催するよう、関連団体と交信を重ね、準備を行った。

3. 地域保健推進のための協働事業

元研修生による特定地域での活動に協力する。

1) ヘルシーライフスタイル推進

元研修生有志ANAK-NCとの協働

（フィリピン）

ミンダナオ島北ダバオ州ニューコレリア町で、元研修生の団体ANAK-NCによる健康増進のための活動を支援した。

従来通り、健康祭り、生活習慣病の啓発活動、保健ボランティアを対象とした研修などを実施しつつ、2011年以降の活動の評価を行った。その結果を受け、今後の事業目標、持続的に活動していくための運営のあり方、関係者の役割等に関して見直しを行った。

2) 保健ボランティア育成と代替医療の推進

元研修生の所属団体INAMとの協働

（フィリピン）

INAM がルソン島中部のリサール州タナイ町及びケソン州ジェネラルナカール町で進める保健ボランティアの育成と行政との連携推進に協力した。

タナイ町では、保健ボランティアが自立的に保健指導や住民による健康基金の運用などを行い、ジェネラルナカール町では、保健ボランティアの能力向上の研修を行った。

しかし、INAM の主要な資金提供団体との関係終了に伴い、それに関連した関係者との協議や新たな支援先探しに重きが置かれたため、AHI との協働事業に遅れが生じた。2017 年度末で完了予定であったが、期間を 3 か月間延長することとした。

3) 小規模 NGO の若手スタッフ育成 元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS Awareness Society (AAS) との協働 (パキスタン)

パキスタンの、地方の小規模 NGO スタッフを対象としたリーダーシップ育成事業を支援した。研修実施は、下記の通り。

AHI による支援終了後を見据え、以前の当該研修の参加者が企画・運営に関わるよう促した。その結果、運営チームへの参加や講師、訪問研修の受け入れなどを以前の参加者がボランティアとして担った。職員 1 名が出張した。

期間：2017 年 3 月 31 日～4 月 9 日

場所：パキスタン東部ラホール市

参加者：15 名

B. 国内活動

1. アジア理解のためのプログラム

1) オープンハウス

気軽に参加できる年に一度の恒例のイベントと

して、2017 年 10 月 9 日（祝・月）に、AHI を会場に開催した。

企画運営を実行委員会が担った。そのメンバーを 6 月以降募り、中学生を含む 20 人近い実行委員が、月 2～4 回実行委員会を持ち、準備を行った。実行委員が当法人の活動への理解を深めることができるよう、情報や機会の提供に努めた。

当日の来場者は約 700 人。25 の外部団体・グループの参加・出展があり、また約 120 名のボランティアの協力を得た。

2) 初めて始めて講座

国際協力、あるいはボランティアなどに関心のある新規の人を対象に、当団体の理念や活動を紹介するための講座を毎月 1 回、第 4 土曜日に開催した。参加者総数 40 名。

この講座への参加後、ボランティア活動やプログラムへの参加につながるよう、同講座において参加者同士の交流に努め、また他のプログラムとの連携を図った。

3) AHI 講座

2017 年度は、以下の 2 回を開催した。

① 2017 年 7 月 16 日

「2 人の大学生が訪問したネパールとバングラデシュの現場の話を聞いて語る集い」

於日本基督教団名古屋中央教会 24 名参加。

AHI で国際研修期間中にインターンを経験した大学生 2 人が、その後関心を広げ、研修生の所属団体で活動、あるいは訪問した経験を語った。同世代の参加者を見込んだが、実際はむしろ中高年の参加者が多く、AHI が若い人たちに学ぶ機会を提供している様子を伝えることとなった。

② 2018 年 1 月 20 日

「元インターン本瀬めぐみのもぎたて報告会」

於 AHI 18 名参加。

AHI インターンとして約1年活動した後、フィリピンで障がい児支援の地域活動に携わった保健師による報告会。

日本での保健師としての経験や現地での体験を通して考えた、人びとの暮らしと健康、また障がいを持つ人たちへの支援のあり方等が語られた。

4) 元研修生による巡回報告会

既支援者が当法人の事業への理解を深めたり、新規の人たちから新たな支援を得ることをねらいとして、1994年の国際研修参加者である、インドのカリラトナムさんを招聘し各地で報告会を行った。カースト制の最も底辺に置かれた人びと（ダリット）の人権を守る運動を長年行ってきたカリさんが、ダリットの状況、活動の実態やその成果を報告した。

訪問先は、東京、大阪、愛知県内、滋賀、および熊本で、大学、キリスト教会、市民グループなどが受け入れ団体となった。

実施時期：2017年11月21日～12月4日
全23集会、参加者総数約800人。

5) スタッフィター

アジアの草の根の人びとへの共感と開発活動への理解を深めるために、元研修生の活動地域を訪問するツアーを行った。スリランカの元研修生及び所属団体の協力を得て、同国中央部の農村地域、茶農園、および西部の沿岸部を訪ね、多民族のスリランカの状況と社会課題に取り組むNGOの活動に触れた。

実施期間：2018年3月20日から30日
参加者：高校生5名、大学生・大学院生3名
(内2名は、インターンとして準備・運営を担った)、および一般7名
同行職員：2名

2. 情報および体験機会の提供

1) 情報誌『アジアの健康』の発行

アジア各地の状況、地域の課題、NGOや住民による取り組みを伝えることをねらいとして、計5回、各回約3,500部を発行した。うち1回は手軽さをねらいとし簡便な形(A4両面)とした。

元研修生の研修後の取り組みや現地の具体的な情報、またボランティアの紹介など、読者が支援の手ごたえや身近に感じられる内容とすることに努めた。

2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

日本の子ども(主対象：小学校高学年以上)向けに、現地での地域開発の活動も織り交ぜて、同時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝えることをねらいとした。インドネシアおよびスリランカの元研修生の協力により、2017年8月に第64号、2018年2月に第65号を各4,000部発行した。

3) ホームページ運営

2017年度初めにホームページを刷新した。従来、多岐にわたる活動を分量多く掲載していたが、ホームページによって初めて当法人に触れる人を念頭に、わかりやすさを優先したものとした。

また、オンラインでの単発の寄付にも対応できるようシステムを変更した。

4) ボランティア/インターン受入れ

国際研修の期間を中心に、年間通じて積極的にボランティアやインターンを受け入れ、NGO活動に触れる機会を提供した。事務作業、国際研修補助、国内プログラム実施協力など多様な業務がボランティア・インターンによって担われた。

インターンは大学生が5名(うち1名はミャンマー人留学生)、一般が1名。

また、日進市内の愛知県立高校の新任教員研修を8月に、みよし市の中学校の職場体験を2018年1月に受け容れた。

3. 他団体との協力

1) 他団体への講師派遣

要請に応じて、下記のように職員や関係者を講師として派遣し、アジアの状況を伝えた。

- ・学校関係（中学～大学） 14件
- ・キリスト教会 3件
- ・諸団体 12件
- ・ブース出展等 9件

*グループでの来館受け入れは、5件

*「小学校で行う国際理解講座」は、日進市内においては市との協働事業として8校で実施した。また、近郊の小学校についても依頼に応じて計5校で実施した。

*2017年度の国際研修参加者のうち、ミャンマーからの研修生を講師として、各地の大学やキリスト教会で、現地の状況とNGOの働きを伝える講演会を行った。

2) 団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動を進める。＜ ＞内は職員の各団体における現役職名。

- ・名古屋NGOセンター＜理事＞
- ・名古屋キリスト教協議会＜書記＞
- ・障害分野NGO連絡会＜幹事＞
- ・日比NGOネットワーク
- ・日本キリスト教協議会
- ・カンボジア市民フォーラム＜世話人＞
- ・開発教育協会
- ・あじさい会（日進市内の事業所交流会）
- ・ゆるやかネットワーク（日進市市民団体協議会）
＜理事＞

- ・パートナーシップサポートセンター

この他、日進市及び近隣地域での市民グループ「にしん平和を考える会」及び「次世代の子どもたちの“いのち・くらし・エネルギー”を考える会」の活動に加わっている。また、職員が次の役職を務める。

- ・社会福祉法人さふらん会＜評議員＞
- ・名古屋YWCA＜評議員＞

3) 他団体との協力による政策提言活動

加盟団体の一員として、関連分野において関係機関等への政策提言活動を行う。

a) 名古屋NGOセンター

東海地域のNGOネットワークである同センターの加盟団体として、国際協力機構（JICA）や外務省などへの政策提言活動に関わった。また、「NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティカレッジ」などの同センターの事業も担い、NGO・NPOの人材育成にも貢献した。

b) カンボジア市民フォーラム

同フォーラムの加盟団体として、カンボジアの開発や保健政策に関する、あるいは援助国・国際援助機関に対する提言活動に関わった。

また、急速に強まったカンボジア政府による市民社会への締め付けに反対する取り組みも行った。

C. 法人運営

1. 理事会・評議員会

理事会を5回、評議員会を2回開催した。2017年度末現在、理事10名、監事2名、評議員11名である。開催日と主な議題は下記の通り。

前年度からの懸案であった会館のバリアフリー化改修については、2017年度末に提示金額等から選定した施工業者と契約を結び、2018年4月に工

事を始めることとした。設計にあたって、障害当事者の視点で住居改修等を助言するボランティアグループの協力を得た。

* 理事会

2017年6月9日

- 2016年度事業報告案・決算案の件
- 「組織的な犯罪の処罰及び犯罪収益の規制等に関する法律」に対する NGO による反対声明への賛同の件

2017年9月12日

- バリアフリー化のための会館改修の件

2017年11月14日

- バリアフリー化のための会館改修の件

2018年3月2日

- バリアフリー化改修の施工業者選定の件

2018年3月14日

- 改修の施工業者選定および発注額の件
- 2018年度事業計画案および予算案の件

* 評議員会

2017年6月26日

- 2016年度事業報告案、決算案の件
- 評議員辞任・選任の件

2018年3月29日

- 2018年度事業計画案・予算案の件

2. 賛助会員募集・募金活動

● 賛助会員現勢 (2018年3月31日現在)

賛助会員総数 2,711名

<うちひとつかみサポーター177名>

寄付者総数 684名

● 支援者・資金獲得のための働きかけ

1) プロボノチームとの検討

7月から12月まで、中部プロボノセンターのプ

ログラムにより、3社5人のプロボノの協力を得て、支援者拡大のための方策を検討した。AHIの活動がわかりにくいこと、高齢化に伴う支援者数の著しい減少から、若い世代への働きかけが必須であることなど指摘を受け、対応策を検討した。新規に対応を打ち出す以外に、既存の支援者との関係を強化し協力を得ること、既存の事業を最大に活用することも提案された。2018年度にこれらを実際の取組みに活かす。

2) 支援のお願いの送付

新規の支援者を得るために、ボランティア活動やプログラムに参加した人たちにあて、メール配信などを通して関係を継続し、2017年12月にボランティア感謝会へのお誘いととも、「ひとつかみサポーター」のお願いを約350通送付した。ここからの協力者は4件であった。

また、昨年度ボランティア活動やプログラムに参加した人たち約200人にあてにクリスマスお正月募金のお願いを送付し、7件の協力が得られた。

3) 古本提供による寄付「ギフトリレー」

協力者からの古本をブックオフが買い取る金額に加え、同社からその買取額の10%が寄付される。これによる2017年度の寄付額(オンラインでの申込分)は30,754円。導入から2年半経ち、新規の人との接点として一定の広がりが見られている。

4) 「想いを伝える遺言書講座」開催

2017年度の開催は、計2回。別途要望に応じて個別相談会も開催した。遺贈への関心の高まり、一定の社会的認知も生まれている。

●会費・寄付金実績

■会費収入実績 計 13,610,016 円

(目標 14,000,000 円 達成率 97%)

1. 従来の会費制度による 計 11,213,016 円

(目標 12,800,000 円 達成率 90%)

a) 新規会費 計 162,000 円

(目標 150,000 円 達成率 108%)

b) 継続会費 計 11,051,016 円

(目標 11,050,000 円 達成率 100%)

★継続率 約 75%

2. ひとつかみサポーター 計 2,397,000 円

(目標 2,800,000 円 達成率 86%)

a) 新規 計 67,000 円

(目標 240,000 円 達成率 28%)

b) 継続 計 2,330,000 円

(目標 2,560,000 円 達成率 91%)

■寄付金収入実績 計 31,378,520 円

(目標 30,000,000 円 達成率 105%)

賛助会員・寄付者に対して下記の募金のお願いを行った。

1. クリスマス・お正月募金

実施期間 2017 年 12 月 1 日-2018 年 2 月 28 日

募金額 14,984,635 円 協力件数 1,449 件

(目標 17,000,000 円 達成率 88%)

2. 一般寄付 16,393,885 円

(目標 13,000,000 円 達成率 126%)